



単会の活動紹介 アクティビティ



秋田北

10月7日(土)に秋田北倫理法人会の新年度懇親会&ボーリング大会を開催いたしました。秋田北の会員など15名が参加し、久々のボーリングに一喜一憂して楽しく汗を流し、懇親会ではボーリング大会の表彰と参加賞の贈呈を行いました。各人の自己紹介の後、お酒を酌み交わし、談笑して楽しいひとときを過ごしました。

秋田北では今後もこのような企画で会員相互の親睦を深め楽しい倫理の学びの輪を作ってまいります。

秋田北倫理法人会 事務長 三浦 修



大 曲

9月17日(日)に大曲倫理法人会主催で「秋田内陸線田んぼアート鑑賞ツアー2023」が開催され、会員のご家族やゲストも合せ、総勢35名が参加いたしました。角館駅から阿仁前田温泉駅まで1時間50分という長い時間もあったという間に感じるほど充実した時間。田んぼアートの鑑賞をしながら、楽しい会話や缶ビール片手の宴会が続き、到着駅では降りそびれそうになる方も(笑)。

阿仁前田温泉クインス森吉での昼食会では、県倫理法人会伊藤辰郎相談役より「老若男女、日本の方も、海外の方も多くの方々にご参加いただき、非常にうれしい。懇親を深め楽しみましょう」とあいさつがあり、声高らかに部屋中に響き渡る笑い声、元気に走り回る子どもたち、英語で語り合う人たち……大変グローバルな昼食会となりました。イベントの開催にあたり、メインでご準備いただいた女性委員会の方々本当にありがとうございました！

大曲倫理法人会 副専任幹事 二方淳介

私の倫理愛読書

未来をひらく—東日本大震災から日本創生へ
丸山敏秋 著

皆様もう一度思い出して、日本最大の地震 2011.3.11

本書を読むと忘れかけていた当時のことが蘇ります。
多くの住民の命を守り自らの生命を犠牲にした被災者の方が数多くいたこと、遺された方々や支えとなった方々のこと、そのほかにも多くの事例が紹介されており、日本人の強さを改めて実感します。

それと同時に、原発震災によって覆された原発の安全性、それまで教えられてこなかった原発の恐怖を思い知らされ、日本の弱さも実感します。

この災いから何を学び、未来をひらいていくために日本がどう進むべきなのか、また日本人としてどう生きていくべきなのか。丸山敏秋理事長の想いがこめられた1冊です。

是非ご拝読下さい。

秋田県倫理法人会 会長 神坂久美



「し」がおすすめ 書籍紹介



RINGS
03
2023-2024
AKITA-RINRI

秋田県倫理法人会会報誌リングス
■発行日/令和6年1月20日 ■発行/秋田県倫理法人会広報委員会 〒010-0951 秋田県秋田市山王3-3-9 電話018-865-1781
■デザイン・編集・印刷/有限会社イズミヤ印刷

秋田県倫理法人会会報誌

RINGS

Vol. 03
2023-2024
AKITA-RINRI

企業に倫理を 職場に心を 家庭に愛を
希望を高く 掲げよう 自ら動こう 1005 社
新たな時代を 突き進もう！

秋田県倫理法人会では、心の経営を目指す人々のネットワークを広げる活動をしています

恩の遡源
倫理の学びにより、
繋がりを深くする



秋田県倫理法人会



心の経営探訪

恩の遡源 倫理の学びにより、繋がりを深くする

株式会社和賀組 代表取締役社長 和賀 幸雄 さん
(湯沢市倫理法人会 副会長)

秋田県湯沢市柳町2丁目2番40号
TEL:0183-73-5107 FAX:0183-73-8788

創業明治10年、約150年の建設会社、株式会社和賀組代表取締役和賀幸雄さんを取材させていただきました。和賀さんは平成11年に横手市倫理法人会に入会、平成15年に湯沢市倫理法人会を立ち上げた後、湯沢市の会員となり現在は副会長をされております。

倫理法人会に入会した当初

今から30年ほど前、平成5年の7月に東京のベンチャー企業を退社して(株)和賀組へ入社、会社経営経験が全く無いながらも専務取締役就任しました。東京では工業用貴金属という特殊な商品のメーカーに勤務、全国の半導体工場や化学工場などを訪問して営業活動しておりました。

倫理法人会へ入会のきっかけは、平成11年に横手の高橋茂さんから突然の電話で、横手市倫理法人会への勧誘をされてすぐに入会いたしました。当時はMSに出ることは無く幽霊会員でした。

4年が経過したある時、横手市の江上さんの名刺が何度も会社の机に上がるようになりました。不思議に思いながらお話を伺うと、「湯沢市に倫理法人会を作りたい」とのことでした。私は「湯沢市は酒の街、皆

飲み会で忙しく早朝からのMS参加は無理ですよ」と伝えたのですが、江上さんは諦めずに何度も足を運んで来られました。その熱意に根負けして、「わかりました一緒に頑張しましょう」と決意して、55社集めて平成15年8月に準倫理法人会を開設、翌年110社で設立となりました。

専任幹事に就任して倫理法人会活動に参加、倫理を学んでいくようになりました。当時建設業を取り巻く環境は大変厳しく、経営も思わしくない状況が続いていましたが『どんな時でも明るく、希望を高く掲げよう』という言葉信じて企業経営に取り組んでおりました。

倫理を学び、社員の気持ちを一つにして 感動の共有を目指す

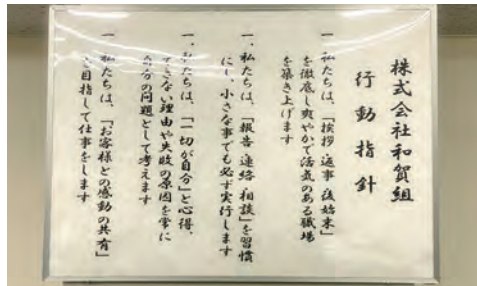
当社では施工現場が広範囲の為、出社せずに現場へ直行をする社員が多く、社員全員が顔を揃える機会が少なく、自分の考えを伝える機会が少ないことが問題でありました。

社員と気持ちを一つにするために活力朝礼を取り入れました。毎日本社に集まれる人だけでやると決め、活力朝礼セミナーに参加をして学びました。新たな行動指針を作って朝礼で唱和し、職場の教養を活用して輪読をしています。

10年程前から年度初めの4月1日に入社式と経営方針発表会を実施しております。バーベキュー大会や忘年会などで社員が集まる機会を増やしましたが、さらに自分の思いや考えを社員一人一人に伝える方法はないかと考えました。毎月出す給与明細書に手紙を添えることを思いつき、2016年から『不易流行』というタイトルの社内報を給与明細に同封することを始めました。現在は基本メールによる送達としておりますが、ウェブサイト上にもバックナンバーも含め掲載しております。毎日の朝礼、月イチの社内報、年度初めの経営方針発表会と繰り返し経営理念を伝えるように努力しており、少しずつ社風が変わってきたことを実感しております。



【目撃せ土木女子】舗装屋さんに挑戦！土木工事おもしろっ



恩の遡源、創業者の想いに触れる

専務に就任した1993年当時、当社は一部JR東日本の仕事をしておりましたが、公共土木工事がメインでした。公共事業は自分で努力しても仕事は増えず、経営は安定しないと考え、民間建築に挑戦して当時は珍しかった鉄筋コンクリートマンションの受注建築にも挑戦しました。その後徐々に事業の柱を増やしていき、現在では公共土木工事、公共建築工事、民間建築工事、コンクリート補修工事、鉄道工事、地盤事業、不動産事業、戸建住宅事業と範囲を広げ、平成21年に5代目社長に就任してからは経営も安定して参りました。

2020年夏に先代が亡くなりましたが、コロナ過でもあり葬儀は身内だけで行いました。後日多くの方からお悔やみの言葉を頂きましたが、中にはそれまで疎遠となっていた方からも多く頂戴しました。義母にその方々との関係を聞いても理解できない事が多く、親戚関係を理解するために家系図を作ってみました。結果どこまで遡れるかに興味湧き、秋田県立公文書館で検索したところ創業者に関する多くの文書を見つけることができました。公文書館の方には大変親身になって対応してもらい、創業者の2代前が仙台藩家中であったことなど新しい事実を多く発見することができました。

明治10年、創業者和賀市蔵は橋梁社岩崎支社として十文字古内と岩崎の間を流れる皆瀬川の、それまでは船渡し場しかなかった場所に木橋を架けました。知事から期限付きの許可を得て、その橋の通行料をもらうという現在で言うところのPFI事業を行っていたのです。資料の中には「土地の者からは受け取らず、旅の人から通行料を貰っていた。人からは7文、馬は14文。東鳥海山の祭りの時には何十円も入った」などの事実も判明しました。さらに水害により橋は頻繁に流失し、その都度補修して知事に許可年限を延長していたこともわかりました。



コンクリート補修事業(本牧ふ頭、横浜市港湾局)



H Y S P E E D工法受注
キャンペーン 3rd Place

当社を代表とするコンソーシアムは今年度、湯沢駅前に計画されている複合施設の設計施工運営のPFI事業に応募し採択されました。明治初期岩崎藩の武士であった市蔵は生業として建設業を選び地域の生活向上に大きく貢献しました。150年前の創業者の想いと繋がることのできたのも倫理の学びのお陰であると感謝し、同時に深い感慨を覚えます。

お話を聞いて改めて、今自分が在るのは、自分の力だけで在るのではない。原点を知り、学ぶことで、感謝の気持ちが湧き上がります。本物の大切さを気づかせていただきました。

活力朝礼は 組織体制の礎



株式会社八永南部家敷
取締役営業部長 小野寺 寛 さん
(秋田市倫理法人会 専任幹事)

岩手県の南部家敷から分かれて平成2年に株式会社八永南部家敷を設立、34年目になるそうです。取締役営業部長 小野寺寛さんに活力朝礼の取材させていただきました。

祭壇の前に整列をして厳かな雰囲気の中、般若心経と感謝の言葉を合唱する事から始まりました。そして職場の教養を輪読、小野寺さんのスピーチ、業務報告を行われました。

創業当初から朝礼を始めていた



創業者が朝礼を始めて40年以上になります。いろいろと取り入れて多少の変化はしておりますが、今もほぼ変わらず続けております。

般若心経は早い段階から始めていたようです。創業者が趣味でヨガをやっていて、腹式呼吸が健康に良いということで朝礼に取り入れる際、それなら一緒に有難いお経も入れようという事から始めました。やはり、声を出すことは良いと思います。ストレスの軽減につながりますし、明るくなります。感謝の言葉「ありがとうございます」も声を出すだけでも皆の心が整っていくと思います。

そして倫理法人会に入会し、職場の教養の活用や、7Acts(セブナクト)、万人幸福の栞輪読などを取り入れました。今は、コロナ禍の影響で、短縮をしておりますが、時機を見て前の通りにしようかと思っております。

倫理を学び、実践と継続をした差

2年程前から、岩手県の南部家敷の運営が厳しくなり、八永南部家敷がグループ会社として経営をしております。岩手南部家敷の店舗数は半分になりましたが、収益の方は改善しました。

原因はコロナ禍の影響もありますが、八永南部家敷の会長は倫理の学びを経営に活かしており、同じコロナ禍の状況でもしっかり運営していったのですが、岩手の方は倫理の良いことを取り入れておりませんでした。そして社内環境の悪化により、運営の対応や決断が出来ない状態になりました。今は、コミュニケーションを増やして、意思疎通を図り組織体制を改善して前向きになっております。倫理を学ぶか学ばないかで、急激な違いが出るものではないですが、やはり30年近くの継続と実践した差は、組織に大きな違いが出たと思います。

その経緯も学びとし、倫理の実践のひとつ活力朝礼を続けていきたいと思っています。



継続する事と実践する事の大切さは、最初の一步は小さくとも、その差は大きく変わるものだ改めて大事な事だと感じました。貴重なお話を頂戴致しました。ありがとうございました。